

浦ノ内湾における赤潮発生予測情報 R7-1

【概要】

- ・ 令和7年7月28日の環境調査で、シャットネラ属の細胞密度が1 mLあたり10細胞（注意基準値）を超えました。
- ・ これまでの知見から、シャットネラ属の細胞密度が10細胞/mLを超えると、その後2～7日で漁業被害が強く懸念される100細胞/mL（警戒基準値）に達する傾向があります。
- ・ 現在、湾内の深度5mにおける水温は29℃台であり、シャットネラ属が増殖可能な環境にあることから、今後増殖する可能性があります。
- ・ これらのことから、今後当該プランクトンが増殖可能な環境が続けば、明日から8月上旬の間に100細胞/mLに達する可能性が高いと考えられますので、十分注意してください。

【赤潮発生予測について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイとシャットネラ属の赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予測マニュアルを令和3年度に作成し、令和4年度から予測情報を提供しています。

【シャットネラ属の赤潮発生予測マニュアル】

- ① 海水中のシャットネラ属の遺伝子量が増加傾向にあると赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が10細胞/mLを超えると、2～7日で100細胞/mL以上まで増殖
（これまでの赤潮発生までの日数：最短2日、最長41日）
- ③ 深度5mの水温が22℃以上になると、赤潮が発生する傾向がある

以上